

意見交換会（宇治市都市計画マスタープラン）議事録
対象：黄檗地域

日時：2021/10/18 19：00～20：30

会場：黄檗体育館

参加者：11名

宇治市：米田副部長、森田係長、藤田主任

マスタープラン検討部会：小出委員

発言者	内容
参加者①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治市の東西を結ぶ道として、隠元橋から東宇治を結ぶバイパス道路が鉄道と立体交差する形で計画されていたはずだが、現在、東西を結ぶ道は一方通行の狭い道路しかない。災害が起きればブロック塀が倒れて道路が不通になる危険性があるし、朝は JR と京阪電車の踏切で車が動かない状態になっているので、鉄道と立体交差する道路が必要である。 ・ 災害時の避難場所について、どこならペットの持ち込みは OK なのか、高齢者や障害者に適した設備はあるかなどの情報がいないため、ハザードマップに情報を載せて欲しい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24 年に都市計画道路の見直しを行いました。隠元橋から東西につながる道路は必要な道路として計画を残しています。都市計画道路はまだ全体で 6 割程しか整備が進んでいない状況ですが、将来、道路を整備する計画はあります。 ・ 避難場所については、福祉関係の避難場所として病院や福祉施設と協定を結んでおり、くらしの便利帳にも記載していますが、まだ数は少ない状態ではあります。ペットの受け入れについては、担当部署が違うので詳細は分かりませんが、今は人の避難に力を入れており、まだ検討には至っていないと思われま。
参加者②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所について、宇治小学校は 5200 人が避難できると聞いたが、そこまで大勢が寝泊り出来るのか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ その「5200 人」は、災害発生時の一時的な避難で受け入れられる人数です。家が倒壊するなどして、長期に避難することになった場合は、また別の場所で考えることになります。
参加者③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菟道高校が避難場所に指定されているが、「菟道高校は府立学校なので災害時に開いている保証はない。府に連絡して開けてもらわないととけない。」と言われた。災害時の連携をしっかりとって欲しい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所を開設するときは、京都府の施設でも本市が主体となって開

	<p>設するはずですが、一度確認してそのようなことがないように注意します。</p>
参加者③	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、JRの黄檗駅と宇治駅の間に菟道駅を新駅としてつくる話があったが、いつの間になくなった。複線化が行われることで、また計画が復活することを期待したが、それもないようである。地域からの働きかけがないのが原因か？
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの要望は受けていますが、新駅をつくるよう鉄道事業者に働きかける上で、まちづくりにどのように活かせるかなど、つくることによる効果をなかなか見出せず、実現に至っていない状況です。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂前の当初のマスタープランに基づいて実行したまちづくりの結果はどうだったのか。その実行した結果があって、今回、新しく計画を立て直しているはずだが、その関係が分からない。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なものとしては、鉄道駅のバリアフリー化や駅前広場の整備を行ったことが挙げられます。また、地域活動でも自らまちづくりのルールをつくって都市計画に定めることを提案される地域もあり、一歩ずつまちづくりが進んでいるところです。
参加者⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープランの資料の中に「気候変動」や「環境」という言葉が出ているが、宇治市の気候変動や環境に関する取り組みについて、情報発信がないので何をやっているか分からない。もっと取り組みについて情報発信して欲しい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・本市も太陽光発電の補助やゴミのリサイクル、電気自動車の利用など環境について取り組んでいますが、情報発信に課題があることも認識しており改善に努めます。
参加者⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・このマスタープランは20年後に向けてのまちづくりの構想だが、まちの現状についての理解がないと計画しても意味がない。現在の犯罪、災害、介護、買い物、育児、託児などの現状について、どのような調査し、どう把握されているのか知りたい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、人口減少や少子高齢化が進む中、行政サービスを維持・向上させることを主な課題として検討しています。人口減少や少子高齢化が進んで税収が減ると、市民の方々への行政サービスが維持出来なくなります。それを防ぐために、今ある資源を有効活用して行政サービスを維持・向上させる方法について検討しています。
参加者⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に宇治市に帰らないかと聞くと、「宇治市にはどのような生活の利便性があるのか。快適に暮らせるのか。」と聞かれる。実態は、高齢の買い物難民や通院難民がおり、育児・託児施設がない状況で帰って来ようとしめない。将来のことよりも現状に焦点を合わせて考えていかないと、人口は増々減る。こうした実態を把握しているのか。

宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の福祉面の課題はありますが、商店やスーパーから徒歩圏 800 m の範囲を見ると、まだ宇治市は比較的に高いサービス水準を維持していると考えています。しかし、人口が減ると商店やスーパーの売り上げが落ち、店舗がなくなっていきます。それを防ぐには若い人にも宇治市や黄檗地域に住んでもらって雇用を生み出し、子育て支援を行うなどの施策が必要になります。
参加者②	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス水準は高くはない。将来の計画も大事だが、現在の暮らしの問題を早く解決していく姿勢でいて欲しい。 ・昔は通れた道路も JR の複線化工事の関係で宇治市に閉鎖されてしまい、宇治病院まですぐに行くことが出来なくなった。このようなことを住民の意向を聞かずに勝手にされて困っている。 ・今の問題を解決するまちづくりをして欲しい。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のマスタープランの目標に対する現状の結果と課題を踏まえないと計画はつくれない。 ・現在も環境を破壊する行為が起きている。羽戸山に隣接する傾斜地で開発が行われようとしている。高い擁壁を築いて住宅地が開発されようとしており、街区への出入り口が傾斜地の下ではなく、上につくられようとしている。一つの街区をつくるのに、羽戸山などの隣の街区に出る道がない。まちづくりの計画を立てておきながら、このような工事を認めるようでは、計画を立てる意味がない。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープランでは住宅地として利用する土地、自然を保護する土地などを区域ごとに分けて設定しています。その区域は、隣の羽戸山と併せて「住宅地として利用する区域」としているので開発を認めています。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> ・その開発地の半分がソーラーパネルになっている。住宅ではないではないか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・その地域にもマスタープランに基づいて、住宅地としての法令の規制がかかっていますが（用途地域）、法令で認められる土地利用の種類にも幅があり、ソーラーパネルは法令で設置が認められています。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> ・法令で認められても計画に合わない行為は中止させるべき。 ・羽戸山の隣接地の開発は傾斜地の下に出入り口を作らないと安全が保てない。このままでは災害が起こる。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為については、詳しくは開発指導課が担当していますが、開発指導課も当然それらの点を確認した上で事業を認めているはずで
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> ・災害は想定外の状況で起こる。構造基準では問題がなくても安全とは限らない。もう既に開発行為は認可されているので、宇治市は傾斜

	<p>地の下に出る道路をつくるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> このような開発行為を認めている現状が、既にマスタープランからずれている。このような地域の現状を分析した上でないと計画は立てられない。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 現状の分析として、市民サービスの水準の分析はしていますが、都市計画に関する分析は大きな視点で行うこととなります。土地利用や高齢者への福祉など、個々の問題があることは、各専門部署が施策の中で色々と伺っており、認識しています。
参加者⑥	<ul style="list-style-type: none"> マスタープランの策定の目的は何か。都市計画は何のためにやるのか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> マスタープランは本市が行う都市計画の基本となる考え方です。 都市計画は市民の皆さんの生活のために行います。
参加者⑥	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生活環境の維持・保全のためであり、宇治市の税収の維持などが目的ではないと言うことでいいですね？
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 皆さんの生活のサービスの質を上げるために派生的な要素は出てきますが、最終的な目的は皆さんの生活を維持・改善することです。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの基本方針②の5-2交通の方針(1)公共交通の中に「市内の地域を結ぶ交通網の再編と新設をすること」を加えて欲しい。バスになるかもしれないが黄檗地域でも現状は東西の移動が困難であるため、このことを目標として加えて欲しい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通を見直すことについては、全体構想の「既存公共交通を基盤として新たな移動ニーズへの対応」として記載しています。 現在は交通のニーズが多様化しており、バスだけでなくタクシーの乗り合いなど他の手段についてもニーズに応じて考えていかないと公共交通を維持できなくなっているため、そのことについて検討しているところです。
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> 現状の交通が維持できていないことについて分析はしたのか。現状を分析しないと計画は立てられない。 公共交通機関はそもそも赤字が出て当たり前。それを補填するのが行政である。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状としても高齢者が増えている状況から、バスなどの既存交通に限らず、ドア・トゥー・ドアのような交通のニーズも増えています。計画を実現させても利用されないものになっては意味がないので、様々な交通手法について検討しているところです。
マスタープラン 検討部会委員	<ul style="list-style-type: none"> マスタープラン検討部会でも地域の現状把握が大切であることは理解しており、今回のオープンハウスでも参加者にまちづくりの現状について地図に落としてもらおう取り組みをしている。まちづくりの

	計画も現状把握を基に積み上げてきているので、それを皆さんにも分かるように言葉ではなくビジュアルとしてすぐに分かる形で示す必要があると感じた。
--	--